

事業報告

第115期 営業報告書(自平成15年3月1日 至平成16年2月29日)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

(イ) 営業の状況

当期におけるわが国の経済は、不安な国際情勢にも拘わらず輸出と設備投資の回復に支えられ、後半には株価と失業率の改善に加え一部個人消費にも持ち直しの兆しが見られました。

映画界におきましては、スクリーン数は前年比46増と10年連続増加して2,681に達し、映画人口も1億6千万人を維持すると共に、興行収入は新記録の2,032億円となりました。

このような情勢下にあつて当社の業績は、ヒット作に恵まれた映画営業部門がスクリーン増の追風にも乗って大幅増収となり、加えて映画興行、テレビ両部門が成績を伸ばし、営業収入は880億2千6百万円(前期比4.2%増)、経常利益は新記録の139億7千1百万円(前期比9.5%増)、当期純利益は63億4千9百万円(前期比3.6%減)となりました。

以下各部門ごとにご報告申し上げます。(各部門とも数字は内部振替控除前のもの)

映画製作 製作部門は、「青の炎」「名探偵コナン 迷宮の十字路」「あずみ」「スパイ・ゾルゲ」「ドラゴンヘッド」「陰陽師Ⅱ」「g@me.」「犬夜叉 天下覇道の剣」「解夏」「嗟う伊右衛門」を製作し、株式会社東宝映画にて「ロボコン」「阿修羅のごとく」「ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京S・O・S」「赤い月」を製作いたしました。

映画営業 前記作品のほか、20年振りに実写邦画の興行収入新記録を樹立した「踊る大捜査線THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ!」をはじめ「2003ドラえもんフェスティバル」「映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ栄光のヤキニクロード」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション 七夜の願い星 ジラーチ」「劇場版とっとこハム太郎 ハムハムグランプリ オーロラ谷の奇跡」「着信アリ」のヒット作品を含む28本を配給いたしました。その結果、映画営業収入は266億2千7百万円(前期比32.7%増)となりました。

映画興行 日劇プレックス、スカラ座、シネマメディアージュ、ナビオTOHOプレックス、伊丹TOHOプレックス、名鉄東宝、シネタウン岐阜等合計114スクリーンにおいて興行を行いました。前記当社配給作品のほか、「キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン」「ターミネーター3」「リロ&スティッチ」「永遠のマリア・カラス」「ロード・オブ・ザ・リング 二つの塔」「マトリックス リローデッド」「ラスト・サムライ」「ファインディング・ニモ」等多彩な話題作・ヒット作を上映いたしました。その結果、映画興行収入は192億9千2百万円(前期比9.9%増)となりました。なお期中に、JR札幌駅南口に松竹(株)、(株)ティ・ジョイとの共同経営で「札幌シネマフロンティア」12スクリーンをオープンする一方、大阪市の南街シネプレックスほかの7スクリーンを閉館し、期末現在の直営劇場は合計107スクリーンとなりました。

また子会社関連では、昨年4月4日にヴァージン・シネマズ・ジャパン(株)を買収、TOHOシネマズ(株)と商号を変更しました。この結果同社経営の81スクリーンが東宝グループに加わると共に、期中に東京都港区の「ヴァージンシネマズ六本木ヒルズ」ほか計3サイト、27スクリーンをオープンさせる一方で老朽化した札幌市ほかの8スクリーンを閉館、グループで105増の合計388スクリーンとし、東宝系興行網の飛躍の充実をはかりました。(上記合計スクリーン数には、それぞれ共同経営12を含んでおります。)

演劇興行 帝国劇場においては、「春は爛漫」、ミュージカル「ミー&マイガール」「レ・ミゼラブル」

「イーストウィックの魔女たち」、東宝オリジナル・ミュージカル「風と共に去りぬ」「十二夜」、マジカルミュージカル「Dream Boy」、「Shocking SHOCK」が大ヒットいたしました。

芸術座においては、名作「放浪記」と「極楽町一丁目」がいずれも大入りとなり、また東宝名人会も堅実な興行を行いました。

日生劇場では、「ザ・コンボイ・ショウVol.22 PENGUINZA」「羅生門一女たちのまぼろしー」がそれぞれ新しいお客様を開拓いたしました。

更に、全国へと展開を続けている東宝演劇の各公演も部門収益に多大の寄与をし、演劇興行収入は110億7千1百万円（前期比12.3%減）となりました。

テレビ 放送用映画番組は、連続ドラマ「木曜ドラマ トリック」10本、昼帯ドラマ「愛しき者へ」65本に加えて、2時間ドラマ「伊勢志摩殺人事件」「津軽海峡ミステリー航路3」等9本を制作いたしました。番組販売収入を加算したテレビ収入は15億5千5百万円（前期比10.8%増）となりました。

映像事業 ビデオ事業は、VHSまたはDVDにより「トリック・劇場版」「犬夜叉 鏡の中の夢幻城」「ゴジラ×メカゴジラ」「ドラえもん のび太とふしぎ風使い」「黄泉がえり」「名探偵コナン 迷宮の十字路」「シカゴ」「あずみ」「ファム・ファタール」「スパイ・ゾルゲ」「DVD・BOX 金田一耕助の事件匣」「ルパン三世 DVD Limited Box」等の提供を行いました。

出版・商品事業は「踊る大捜査線 THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ!」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション 七夜の願い星 ジラーチ」「陰陽師II」「犬夜叉 天下覇道の剣」「ターミネーター3」「トゥームレイダー2」等が順調に稼動いたしました。

版權事業は「東宝怪獣キャラクター」「超星神グランセイザー」の商品化権収入と各種受取配分金がありました。以上により映像事業収入は、173億8百万円（前期比14.2%減）となりました。

不動産経営 全国50余の所管物件の効率的運用をめざし営業を展開すると共に、老朽建物の再開発を積極的に進めました。この一環として、昨年6月に横浜東宝ビル（ロイネットホテル横浜馬車道）が竣工し業績に貢献いたしました。一方、昨年8～9月に上野東宝ビル・札幌日劇ビル・熊本プラザビルが、また本年1月には南街ビルが、それぞれ再開発に入ったことにより、不動産経営収入は181億8千4百万円（前期比0.1%減）となりました。

その他の営業諸収入は3億9千9百万円となりました。

以上の営業収入合計額944億4千万円より内部振替額64億1千4百万円を控除した額が前記営業収入となっております。

（ロ）設備投資及び資金調達の状況

当期の設備投資は、エンゼルビル土地建物持分購入代金等として26億5百万円、横浜東宝ビル新築工事代金として17億6百万円、札幌シネマフロンティア劇場工事代金として6億1千3百万円、南街ビル隣地購入代金として6億1千万円、東宝スタジオ改修工事代金等として4億8百万円、名宝ビル隣地購入代金として2億3千万円、その他を加え総額65億8千7百万円となりました。このうち南街ビル隣地購入代金は、第1回無担保普通社債（額面100億円）及び第2回無担保普通社債（額面100億円）発行（払込期日平成15年8月20日）による手取金199億7千5百万円の一部より充当し、他は自己資金により賄っております。

（2）当社が対処すべき課題

今後の経済情勢は、景気回復への期待感が高まるものの、国際テロ等の不安を抱え年金改革に伴う消費手控えなど、その足取りは楽観を許さないものと思われます。

映画業界はシネコンの増設により収入の拡大を見てはいるものの、スクリーン急増に映画人口増が伴わず、従来型映画館の苦戦など興行現場は厳しい状況下にあります。

これらに対処すべく当社は、収支に見合ったシネコンの適正出店と、インターネット・携帯電話予約等お待たせせずにご入場いただけるシステムの導入をはかるなど、きめの細かいお客様サービスの改善に努めてまいります。またシリーズ作品に加え新しい才能を発掘する鮮度の高い作品を番組に組込むなどお客様の幅広いニーズに対応し、多様なコンテンツの獲得提供に努めると共に、映像製作需要増に応え50億円を投資して東宝スタジオ施設の一大革新を行います。更に全国所有不動産の再開発を引続き積極的に進め、より強固な経営基盤の確立を目指す所存でございます。

今後ともなお一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

